



BUSINESS REPORT

FUJI ビジネスレポート

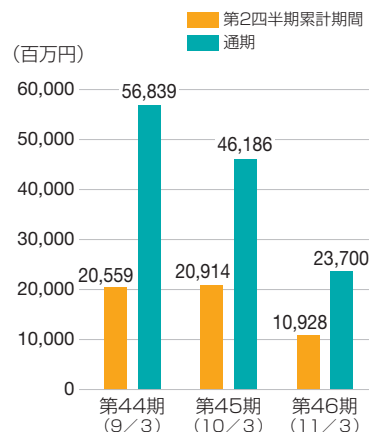
第46期 — 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

株式会社 藤商事

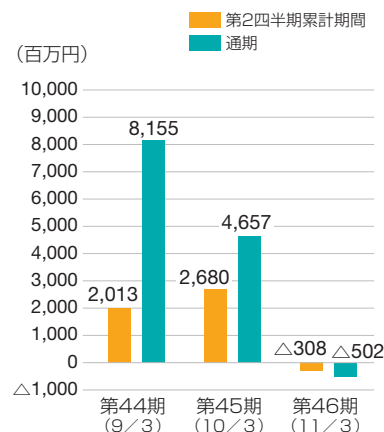


JASDAQ
(証券コード 6257)

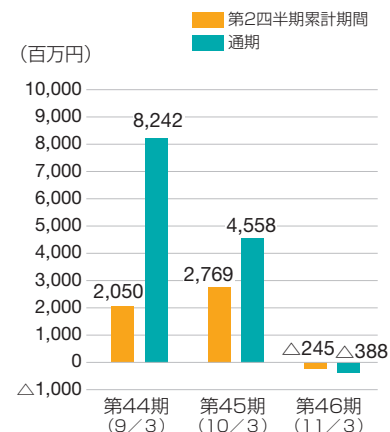
■売上高



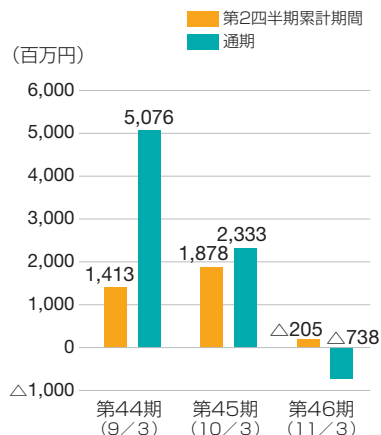
■営業利益 (営業損失△)



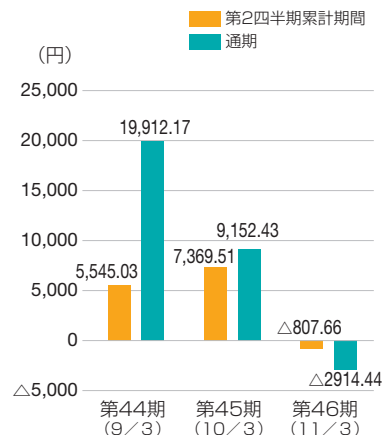
■経常利益 (経常損失△)



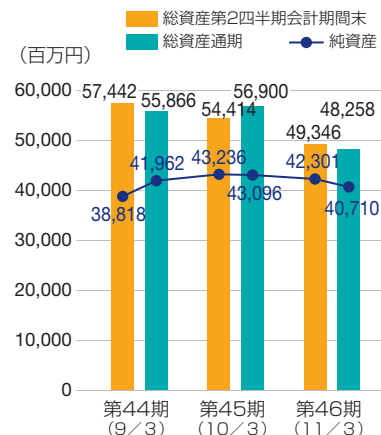
■当期純利益 (純損失△)



■1株当たり当期純利益 (純損失△)



■総資産/純資産



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、東日本大震災で被災されました皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。被災地域の皆様が、一日も早く日常生活を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、第46期における当社を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況でした。わが国の経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直しの動きが見られたものの、完全失業率の高止まりや円高の長期化など、国内経済全体としては低調に推移いたしました。

パチンコホールの収益力は依然として回復の兆しが見られはしないものの、パチンコ参加人口は2年連続で増加し、パチスロ遊技機では一部の人気機種を中心として、稼働状況の改善傾向が見られました。

このような状況のなか当社は、攻めの姿勢で新機種を積極的に市場投入いたしました。しかしながら、お客様から十分な評価を得られた機種が少なかったことに加え、新機種「CRゲゲの鬼太郎 妖怪頂上決戦」については東日本大震災の被災状況に鑑み、納品開始時期を翌期に延期したことも影響し、販売台数は当初計画を下回りました。これらの結果、当事業年度における業績は、売上高237億円(対前期比48.7%減)、営業損失5億2百万円(前期は営業利益46億57百万円)、経常損失3億88百万円(前期は経常利益45億58百万円)、当期純損失7億38百万円(前期は当期純利益23億33百万円)となりました。

当事業年度における業績は厳しい結果ではありましたが、当社は、改めて原点に立ち戻り、コーポレートスローガンの「ヒト味違うオモシロさ」を追求した研究開発に注力し、景気や市場の動向に左右されない企業体質を構築してまいります。株主様からの一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長
松元 邦夫





オモシロさにこだわる モノづくりの原点と 流行を創り出す情熱で V字回復を目指します。

Q1 第46期を振り返り、この1年間の取り組みをどのように分析・評価されていますか。

A1 業績評価を真摯に受け止め、対処すべき課題、目指している方向を再認識した1年間でした。

第46期(平成23年3月期)は、市場投入した遊技機の販売台数が伸び悩んだことにより、当初の業績計画を達成することはできませんでしたが、対処すべき課題を明確にした1年であったと捉えています。

現在、パチンコホール業界では店舗間の集客競争が厳しさを増しています。そのような状況のなかで、遊技機メー

カーに求められるものは、長期間にわたってファンの皆様楽しんでいただける遊技機です。現在、遊技機メーカーからは、毎月、数多くの新台が市場投入されています。パチンコホール様は、厳しい経営環境のなかで、数多くの新台のなかから魅力ある遊技機を厳選して店舗に導入することで、収益確保を図っておられます。したがって、遊技機メーカーにとっては、パチンコホール様において長期間の稼働を見込めるような商品性の高い遊技機をいかにして創出するかが、販売台数の増加と業績向上の鍵となります。

当社においても、第46期の最重要課題として「稼働力の

向上」を挙げ、ファンの皆様に長期間、楽しんでいただけるモノづくりに取り組んできました。しかしながら、当期については、お客様のニーズに十分お応えできた遊技機が少なかったと感じています。その要因としては、機種開発のスタートに当る企画段階でのゲーム構成や、アピールポイントなどに対する詰めの甘さにあったと痛感しております。

商品の成否は、パチンコホールに来られるお客様に、いかに満足していただけるかどうかです。それはとりもなおさず、作り手である我々が、どれだけ心血を注ぎ、じっくりと時間をかけて細かい部分の一つひとつ吟味し、本当に納得できるものを世の中へ送り出していくことができるかにかかっています。

藤商事が大切にしてきたオモシロさのこだわり、モノづ

くりの方向性を再確認する必要があるのではないかと。私も含め、全社員にそういった気づきを与えてくれたのが、当期の業績不振ではなかったかと捉えています。第47期については、稼働力の向上を念頭に、魅力あふれる遊技機の創出に情熱を注ぎ、販売台数の確保に努めたいと考えています。

Q2 機種開発における重要ポイントについて、さらに詳しくお聞かせください。

A2 新しい「モノ・コト」にチャレンジしていく姿勢を持ち続けることです。

当社が目指す方向は、「流行を創り出す」ことです。流行を追いかけるのではなく、流行を先取りすることが必要です。

世の中のニーズは変化に富んでおり、変化していくスピードは年を追うごとに速くなっています。変化の速い市場にこたえていくには、流行に敏感であることが大切です。当然のことながら、私達は遊技機メーカーとして、新技術や映像表現の進化といった、いわゆる「モノ」づくりに重点を置いています。また、開発を進めていくなかで流行を創り出すためのブラッシュアップは欠かせません。私自身、日頃から若い人たちとの会話から、情報収集を積極的に行い、「流行のタネ」を探し、モノづくりに反映させる努力をしています。

そして、新商品の注目や話題性を高めるために、新たな切り口でのプロモーションなど、仕掛ける「コト」を考え出し、お客様に提案していくことが、販売台数の底上げを図るうえで重要と考えています。まずは新しい「モノ・コト」にチャレンジしていく姿勢が大切です。

第46期の活動ポイント

① 稼働力の向上

長期間の稼働を実現する要素の追求

- ▶ 企画段階での稼働力への取り組み不足により、販売台数が減少

② 利益計画の着実な達成

- a) 販売計画の達成
- b) 収益力の強化
- c) 材料ロスの低減

- ▶ 販売計画の未達成により、収益力低下、材料ロスの増加要因に

社長インタビュー

とはいえ、単に目新しさだけを追求していればそれでいいかといえば不十分です。パチンコ・パチスロという大衆娯楽を提供する立場にあるわけですから、やはり皆様に受け入れられる楽しさや「オモシロさ」がなければ、ヒットには結びつきません。言葉では簡単ですが、我々が「これは良い」と思い市場に送り出した商品でも、実際にパチンコホールで遊技していただくお客様に、こちらの狙いどおり楽しんでいただかなくては、意味がありません。

我々が求める「オモシロさ」は、パチンコ・パチスロを通じてお客様の好奇心を満たし、「楽しいひと時が過ごせた」と実感していただくところにあります。

その実現に向けて、開発に携わるスタッフのみならず、顧客目線に最も近い存在である営業現場のスタッフによる検証やアドバイスも活かすことで、「オモシロさ」に対するイメージの共有をもとに、さらなる「オモシロさ」を追求することで、独りよがりのモノづくりを防ぐように努めています。

Q3 2011年度に当る第47期の取り組みをお聞かせください。

A3 遊技機の稼働力の強化を重点課題として、黒字転換が至上命題です。

第46期では不十分であった遊技機における長期間の稼働を実現する要素の追求が最も重要と考えており、遊技機のスペックの充実や演出手法の向上、ゲーム構成の進化などが稼働力向上の鍵を握っていると考えています。パチン

コ・パチスロの楽しさは大当たりした時の嬉しさはもちろんですが、大当たりに至るまでの期待感も重要な要素です。液晶画面の中で映像が変化していくタイミングのとり方、リーチが発展していく段階的構成など、お客様を引き込むような「間持ち感」の創り込みを強化していきます。第46期の反省をふまえて、気を引き締め、じっくりと時間をかけて、様々な角度から、多くの人の目を通して、長期間の稼働を実現する商品を送り出していきたいと思えます。

また、魅力的な商品の要素として、著作権も重要です。パチンコ・パチスロのゲーム性を高めるうえで、著作権の持つ世界感やストーリー性は大きな役割を果たしており、いわゆる“著作権機種”は、現在市場に投入されている遊技機の主流となっています。当社は著作権機種のいち早く市場に投入した実績があります。今後も、ファンの皆様から親しまれる魅力ある著作権とのタイアップ戦略を進めてまいります。

そして、経営の「守り」の部分であるコストダウンについては、材料ロスの低減活動を念頭に引き続き取り組むとともに、「攻め」の部分である研究開発や広告宣伝などについては、より効果的に経営資源を活用していきたいと考えています。

当社はもともと雀球(じやん球)遊技機からスタートしましたが、縁あってパチンコ遊技機を手掛けるようになりました。そして、パチンコでの発展をステップとして、パチスロにも参入を果たすことができました。

それだけに、我々には「パチンコを作らせていただいている」という感謝の気持ちがあります。パチンコを手掛け

る機会に恵まれたことが、現在に至る藤商事を形作ってきたわけです。安易なモノづくりをしてはならないという遺伝子が刻み込まれています。この藤商事の遺伝子を、これからも絶やすことなく社員全員で守ってまいります。

第47期(平成24年3月期)の業績については、売上高370億円、経常利益20億円を見込んでおります。対処すべき課題である「稼働力の向上」の実現を通じて、業績計画の着実な達成を果たし、黒字転換を目指してまいります。

第47期 経営計画のポイント

① 稼働力の向上

- 長期間の稼働を実現する要素の追求
- 魅力ある著作権とのタイアップを推進

② 攻めの経営

- 研究開発や広告宣伝に対する経営資源の効果的な活用

③ 守りの経営

- 材料ロス低減の徹底によるコストダウンを推進

Q4 当期の配当政策について、お聞かせください。

A4 期末の配当金は当初の予定通り1株当たり2,250円とし、通期で4,500円とさせていただきます。

当社は、企業価値の向上とともに、株主の皆様に適正な利益還元を図ることを経営の重要課題と位置づけております。したがって当事業年度における配当につきましては、継続した配当の基本方針に基づき、期末の配当金は当初の予定通り、1株当たり2,250円とし、通期で4,500円とさせていただきます。

今後とも株主の皆様には変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。





「24時」になれば何かが起こる!
出玉ヲ狩リ獲レ!

CRヴァン・ヘルシング ハンティングラッシュ

平成22年9月発売

Van Helsing is a trademark and copyright of Universal Studios.
Licensed by Universal Studios Licensing LLLP. All Rights Reserved.



衝撃 臨場 限界
MAX! MAX! MAX!

CRジュラシックパークMAX2

平成22年11月発売

Jurassic Park is a trademark and copyright of Universal Studios and Amblin Entertainment, Inc.
Licensed by Universal Studios Licensing LLLP. All rights reserved.



最高傑作完結編

CR**暴れん坊将軍**シリーズの集大成

CR新暴れん坊将軍 不死身の閻鳥

平成23年2月発売

©東映 The font used on this product is provided by Hakyusu Fonts co., Ltd.

ワクワク続々! 鬼太郎バトル! 妖怪バトル 開幕!!

パチンコでしか見ることのできない現代文明と
鬼太郎の世界観を共存させた新演出満載。
歴代シリーズ最大ボリュームで作り上げた
「ヒト味違う」バトルパチンコをご堪能下さい。



CR **ゲゲゲの鬼太郎** 妖怪頂上決戦

©水木プロ



CRゲゲゲの鬼太郎 妖怪頂上決戦

平成23年5月発売

経営成績に関する分析

当期の経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、海外経済の回復に支えられた輸出の増加や各種の政策効果などにより、企業収益は改善の兆しが見られました。しかしながら、完全失業率の高止まりや円高の長期化など、国内経済全体としては引き続き低調に推移いたしました。また、3月11日に発生しました東日本大震災により、景気の先行きに対する不透明感がさらに強まりました。

パチンコホール業界におきましては、パチンコ遊技機では1円パチンコに代表される低貸玉営業が広く定着したことなどの効果もあり、平成21年度のパチンコ参加人口は前年比で140万人増の1,720万人(財)日本生産性本部「レジャー白書2010」となり、2年連続で増加いたしました。また、パチスロ遊技機では一部の人気機種を中心として、パチンコホールでの稼働にも改善傾向が見られました。

一方で、パチンコホールの主な収益源である通常の貸玉営業での集客や稼働は低調に推移し、パチンコホールの収益力は依然として回復の兆しは見られておりません。加えて、このたびの東日本大震災による、東北地方を中心とする被災店舗の営業休止や、東日本の一部地域での計画停電にともなう営業時間の短縮などにより、パチンコホールをとりまく経営環境は、一段と厳しさを増しました。

遊技機業界におきましては、本年度はAPEC開催に関連した入

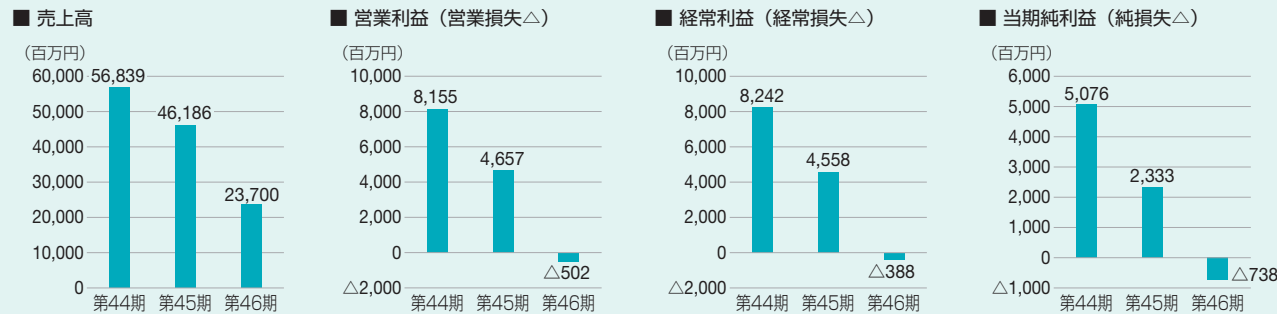
替自粛の影響もあり、パチンコ遊技機の市場全体の販売台数は、前事業年度を下回る結果となりました。パチンコホールの厳しい経営環境を反映し、遊技機の購入につきましても慎重姿勢が強まり、高水準の稼働が見込める機種に需要が集中する傾向が継続いたしました。

このような状況のもと当社は、著作権や演出、ゲーム構成など長期間の稼働を実現する要素の追求とともに、幅広いファン層に対応した販売ラインナップの充実に取り組みました。パチンコ遊技機につきましては、著名著作権とのタイアップ機種や斬新なゲーム性を備えた機種など、新規タイトルとして6機種を市場投入したほか、前事業年度に発売した機種の新スペックを追加発売し、販売台数の確保に努めました。

上半期に発売しました「CRヴァン・ヘルシング ハンティングラッシュ」では、時計役物を備えた斬新なゲーム性が注目され、当初の計画を上回る販売台数を確保したものの、その他の発売機種につきましては総じて厳しい商戦を強いられました。さらに、当初3月下旬から納品開始を予定しておりました、「CRゲゲの鬼太郎 妖怪頂上決戦」につきましては、東日本大震災による被災状況に鑑み、納品開始を翌期5月上旬に変更いたしました。

また、当事業年度に販売を予定しておりましたパチスロ遊技機2機種につきましては、スペック面で、より市場ニーズに対応する商品性を実現するために、さらなる作り込みが必要と判断し、販売時期を翌期に変更いたしました。

財務ハイライト



以上の結果、当事業年度の業績につきましては、前事業年度を大幅に下回る結果となり、売上高237億円(対前期比48.7%減)、営業損失5億2百万円(前期は営業利益46億57百万円)、経常損失3億88百万円(前期は経常利益45億58百万円)、当期純損失7億38百万円(前期は当期純利益23億33百万円)となりました。

製品別の状況は次のとおりであります。

●パチンコ遊技機

上半期では、前事業年度発売機種の手軽に安く遊べるタイプなど(CRA宇宙戦艦ヤマト3、CR相川七瀬 時空の翼、CRレーザーシャトル)を市場投入したほか、アメリカのSFコメディ映画をモチーフにしました「CRゴーストバスターズ」シリーズ(平成22年4月発売)、灼熱霸王役物を搭載し、出玉感が爽快な当社オリジナル機種「CR霸王信長」シリーズ(平成22年7月発売)、ロボット・アニメの名作を今に再現した「CR勇者ライディーン」シリーズ(平成22年8月発売)、「運命の時計24時」を契機に突入するドラキュラとの手に汗握るバトルが魅力の「CRヴァン・ヘルシング ハンティングラッシュ」シリーズ(平成22年9月発売)を市場投入いたしました。

また、下半期では、裸眼3D液晶を搭載し、迫り来る恐竜の迫力ある新演出が魅力の「CRジュラシックパークMAX2」シリーズ(平成22年11月発売)、シリーズ機種史上最高の演出ボリュームを搭載した「CR新暴れん坊将軍 不死身の闇鳥」シリーズ(平成23年2月発売)を市場投入いたしました。以上の結果、販売台数は73千台(対前期比52.8%減)、売上高は237億円(同48.3%減)となりました。

●パチスロ遊技機

パチスロ遊技機では、当事業年度において新機種の発売はありませんでした。

次期の見通し

国内経済は、このたびの東日本大震災の影響を大きく受けており、景気の先行きにつきましては見通しづらい状況にあります。また、震

災発生以降、生活防衛意識の高まりから消費マインドは低下しており、レジャーに対する支出抑制の傾向は、当面継続することが想定されます。

パチンコホール業界におきましても、広告宣伝活動の自粛や電力事情への配慮にともなう屋外広告の消灯、営業時間の短縮などにより、集客および収益の減少が懸念されております。

当社といたしましては、このようなパチンコホール業界の厳しい経営環境をふまえ、ファンの皆様に支持され、安定した稼働力を実現する遊技機の供給を通じて、パチンコホールの営業力強化に貢献してまいりたいと考えております。

次期につきましては、機種ごとの販売計画を着実に達成するとともに、収益力向上、コスト削減に対する取り組みをさらに強化することにより、売上高、各利益ともに確実な回復を果たしてまいりたいと考えております。パチンコ遊技機では、本年5月上旬から「CRゲゲの鬼太郎 妖怪頂上決戦」の納品を開始しており、現時点におきまして、約2万台の販売となっております。

今後につきましては、稼働力を備えた新機種を、よりの確実なタイミングで市場投入することにより、販売台数の確保に努めてまいります。パチスロ遊技機につきましては、準備が整い次第、順次新機種を発売してまいります。

以上の状況をふまえ、通期の業績見通しにつきましては、売上高370億円(対前期比56.1%増)、営業利益20億円(前期は営業損失5億2百万円)、経常利益20億円(前期は経常損失3億88百万円)、当期純利益12億円(前期は当期純損失7億38百万円)といたします。

(注) 遊技機の製造・販売については、風営法等に定める「技術上の規格」への適合について、指定試験機関による型式試験および各都道府県公安委員会による検定を受ける必要があります。上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、遊技機の型式試験の適合状況をはじめ、今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

■ 貸借対照表

単位：百万円

科目	当事業年度 (H23.3.31現在)	前事業年度 (H22.3.31現在)	科目	当事業年度 (H23.3.31現在)	前事業年度 (H22.3.31現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	35,987	42,755	流動負債	6,070	12,312
現金及び預金	20,674	26,398	買掛金	4,540	8,280
有価証券	1,909	1,704	未払金	1,113	1,998
受取手形	1,076	3,026	未払法人税等	—	1,423
売掛金	1,184	5,297	賞与引当金	237	296
たな卸資産	4,898	3,079	その他	179	313
繰延税金資産	1,716	1,563	固定負債	1,476	1,492
その他	4,528	1,684	退職給付引当金	751	731
固定資産	12,270	14,145	その他	724	760
有形固定資産	7,839	8,575	負債合計	7,547	13,804
建物	2,166	2,369	純資産の部		
機械及び装置	509	771	株主資本	40,716	43,088
工具器具備品	745	957	資本金	3,281	3,281
土地	4,357	4,362	資本剰余金	3,258	3,258
その他	61	115	利益剰余金	34,663	36,549
無形固定資産	211	178	自己株式	△486	—
投資その他の資産	4,219	5,391	評価・換算差額等	△5	7
投資有価証券	1,313	1,698	その他有価証券評価差額金	△5	7
長期前払費用	2,262	2,836	純資産合計	40,710	43,096
繰延税金資産	382	594	負債純資産合計	48,258	56,900
その他	261	260			
資産合計	48,258	56,900			

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書

単位：百万円

科目	当事業年度 (H22.4.1~ H23.3.31)	前事業年度 (H21.4.1~ H22.3.31)
売上高	23,700	46,186
売上原価	13,175	27,593
売上総利益	10,525	18,592
販売費及び一般管理費	11,027	13,934
営業利益又は営業損失(△)	△502	4,657
営業外収益	193	222
営業外費用	79	322
経常利益又は経常損失(△)	△388	4,558
特別利益	41	61
特別損失	240	50
税引前当期純利益又は 税引前当期純損失(△)	△587	4,568
法人税、住民税及び事業税	37	2,227
過年度法人税等	45	904
法人税等調整額	67	△896
当期純利益又は当期純損失(△)	△738	2,333

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当事業年度 (H22.4.1~H23.3.31)	前事業年度 (H21.4.1~H22.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,939	3,449
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,148	△2,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,636	△1,209
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,724	208
現金及び現金同等物の期首残高	26,398	26,190
現金及び現金同等物の期末残高	20,674	26,398

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書

当事業年度(H22.4.1~H23.3.31)

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	3,281	3,258	36,549	—	43,088	7	7	43,096
事業年度中の変動額								
剰余金の配当			△1,147		△1,147			△1,147
当期純損失			△738		△738			△738
自己株式の取得				△486	△486			△486
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△12	△12	△12
事業年度中変動額合計	—	—	△1,885	△486	△2,372	△12	△12	△2,385
当期末残高	3,281	3,258	34,663	△486	40,716	△5	△5	40,710

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

設立 昭和41年10月1日
 本社 大阪市中央区内本町一丁目1番4号
 従業員数 381名
 事業内容 パチンコ遊技機・パチスロ遊技機の開発、製造、販売

役員

代表取締役社長 松元邦夫
 取締役副社長 松元正夫
 専務取締役 井上孝司
 常務取締役 辻田隆
 取締役 羽山敏隆
 取締役 米田勝己
 取締役 渡辺勝治
 社外取締役 坪本浩一郎
 社外取締役 川添嗣夫
 常勤監査役(社外) 川西耕司
 監査役 近藤邦博
 社外監査役 堀弘二

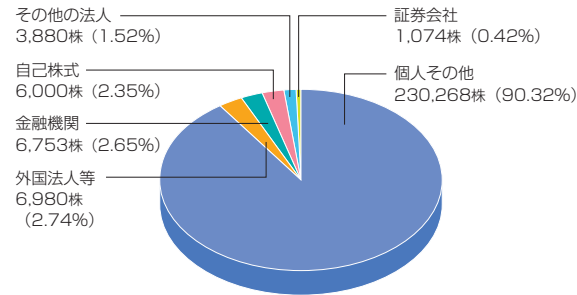
事業所

名古屋事業所(名古屋工場および開発部)
 東京開発事業所
 東京支店 横浜営業所 広島営業所
 大阪支店 八王子営業所 高松営業所
 札幌営業所 静岡営業所 福岡営業所
 青森営業所 名古屋営業所 熊本営業所
 仙台営業所 金沢営業所 鹿児島営業所
 千葉営業所 京都営業所
 埼玉営業所 神戸営業所

株式の状況

- 発行可能株式総数 800,000株
- 発行済株式の総数 254,955株
(自己株式6,000株を含む)
- 株主数 6,380名

所有者別株式分布



4) 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
松元 邦夫	95,560	38.38
松元 正夫	65,626	26.36
釣谷 香揚子	24,280	9.75
吉田 嘉明	4,696	1.89
藤商事従業員持株会	2,773	1.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,614	1.05
松元 恵子	2,600	1.04
大阪証券金融株式会社	1,299	0.52
MELLON BANK TREATY CLIENTS OMNIBUS	1,239	0.50
ティーツー・キャピタル株式会社	1,000	0.40

(注) 1. 当社は、自己株式を6,000株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

トピックス

■ 社会貢献活動への取り組み

藤商事では、良き企業市民として地域社会との良好な関係を築くため、積極的に社会貢献活動に取り組んでまいります。

● クリーンアップ活動への参加

・クリーンおおさか2010

大阪市が主催する市内の一斉活動に、本社および大阪支店の従業員あわせて51名が参加し、事業所近辺の清掃活動を行いました。

・荒川クリーンエイド

関東地区に展開している各事業所から、従業員と家族63名が参加し、荒川の清掃活動を行いました。



・大江川クリーン作戦

名古屋事業所から従業員と家族42名が参加し、大江川の沿道および水路の清掃活動を行いました。

● 東日本大震災に対する義援金の実施

3月11日に発生しました東日本大震災にともなう被災者の方々の救済や、被災地の復興に役立てていただくため、2,000万円を寄付いたしました。

被災者の皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地が一日も早く復興することをお祈り申し上げます。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当 毎年3月31日
 中間配当 毎年9月30日
 その他必要ある時は、予め公告して定めた日
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

ホームページ紹介

藤商事のホームページでは、皆様楽しんで頂けるよう、様々な情報をご提供しています。



ホール様専用サイトでは、支援活動の一環としてPOP素材提供などを行っています。
ちのれいり

携帯メディアを使った情報サービスも行っていきます。

藤商事公式携帯サイトでは、多彩なコンテンツを公開中!!

CONTENTS
 ・アプリ・着うた ・待受画像 ・待受アプリ
 ・着メロ ・着ボイス ・動画 ・待受フラッシュ



●「i-mode」及び「i-モード」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
 ●「EZweb」はKDDI株式会社の登録商標です。
 ●「Yahoo! ケータイ」及び「Yahoo!」のロゴマークは、米国Yahoo! Inc.の登録商標または商標です。 月額 315円(税込)

郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 ☎0120-176-417
 ホームページ http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
 当社のホームページに掲載致します。(http://www.fujimarakun.co.jp/)ただし、事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載致します。

BUSINESS REPORT



<http://www.fujimarukun.co.jp>



この報告書は、再生可能な植物油
インキを使用しています。